広告

脳と心臓の深い関係を知り

脳卒中を予防しよう

高齢者に多い脳の病気・脳卒中。日本一の健康長寿県を目指す高知県民にとって、いつまでも生き生きと過ごすためには、病気への理解を深め予防に努めることが大切です。

脳の血管が切れたり詰まったりして起こる病気「脳卒中」は高齢者に多く、高齢化が進む高知県にとってその対策は極めて重要です。脳卒中の原因は加齢や不健康な生活が挙げられますが、実は心臓とも密接な関わりがあります。ではどうすれば脳卒中を予防できるのか。また原因の一つとされる「心房細動」とはどんな病気なのか。脳神経外科と循環器内科の専門の医師に聞きました。（本文敬称略）

高齢化進む高知県 心房細動が原因の塞栓症に注意

川井　高齢になるにつれて脳卒中や循環器病のリスクは高まります。また、亡くなる原因として、特に高齢者の場合はがんよりも多いケースもあります。そのような背景から2019年12月に脳卒中・循環器病対策基本法が施行されましたが、他県より高齢化が進んでいる高知県ではこの対策が特に重要となってきます。では、まず脳卒中とはどんな病気なのか脳神経外科医師の西本陽央先生お話しください。

西本　脳の血管に突然起こる病気の総称を脳卒中といい、血管が切れる出血性脳卒中と、血管が詰まる虚血性脳卒中の二つに分けられます。出血性脳卒中には、血管が切れる「脳出血」と血管の中に瘤（こぶ）ができる「くも膜下出血」があり、血管が詰まる虚血性脳卒中には「脳梗塞」があります。

川井　脳梗塞には、さらに三つの種類があるそうですね。

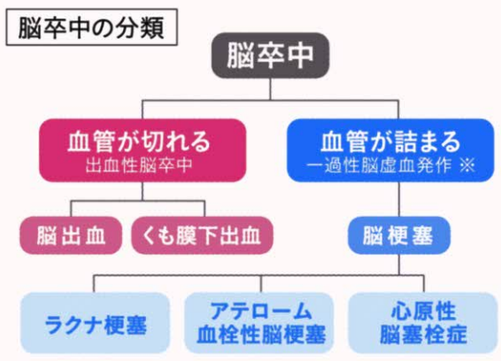
西本　はい。一つ目が細い血管が詰まる「ラクナ梗塞」、二つ目が比較的大きな血管が詰まる「アテローム血栓性脳梗塞」です。これらは動脈硬化に関係があり、加齢、高血圧、糖尿病、高コレステロール、喫煙などが発症原因とされています。ですから血圧のコントロールや禁煙が予防につながります。

そして脳梗塞の三つ目が、今日詳しくお話ししたい塞栓（そくせん）性の脳梗塞です。心臓でできた血栓という血の塊が脳に流れてきて血管に詰まる脳梗塞を「心原性脳塞栓症」といいます。一番大きな原因は心房細動という不整脈で、心房細動は高齢になるほど増えることから、高齢化が進む最近は心原性脳塞栓症が非常に増えてきています。心原性脳塞栓症はノックアウト型とも呼ばれ、重症化や、場合によっては死に至る可能性があることも特徴です。

脳梗塞のリスクを減らし健康寿命を延ばそう

社会医療法人近森会 近森病院 循環器内科
菅根 裕紀（すがね ひろき）先生
循環器疾患の急性期治療と心臓カテーテル治療を専門分野とし、内科急性疾患全域の集中治療全般に係る。
日本循環器学会 循環器専門医

脳卒中の分類



※ 脳梗塞の前触れの発作で症状が24時間以内に消失する状態

脳卒中治療は時間が勝負 症状が出たらすぐに病院へ

社会医療法人近森会 近森病院 脳神経外科 科長
西本 陽央（にしもと よう）先生
脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）や、その他の脳血管障害（未破裂脳動脈瘤（りゅう）、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻（ろう）など）の外科治療（開頭手術）、脳血管内治療（カテーテル治療）を専門とする。
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会 脳血管内治療専門医

症状が現れたら躊躇（ちゅうちょ）せずに救急車を呼ぼう

川井　脳卒中にはさまざまなタイプがあるということですね。発症した場合どのような症状が出るのでしょう。

西本　患者さんによって異なりますが、手足が動かなくなる、言葉が出なくなる、ろれつが回らなくなる、ぼんやりする、倒れて意識がなくなるなどさまざまな症状が挙げられます。

川井　心房細動の増加により心原性脳塞栓症が増えているということでしたが、この病気は後遺症が重篤化しやすいので対処法が気になる方も多いと思います。疑わしい症状が出たときの対処や治療法を教えてください。

西本　脳卒中は、突然起こる病気です。ですから先ほど述べたような症状が突然見られたら、とにかくすぐ救急車を呼んで病院に行ってください。「タイムイズブレイン」という言葉がある通り、脳卒中治療は時間が勝負となっています。1分でも1秒でも早く病院に行くことが大切です。

病院では、出血性脳卒中の場合は止血治療や手術をします。脳梗塞の場合、発症後4時間半以内であれば、血管の詰まりを溶かす薬剤を点滴投与します。しかしこの治療には限界があり、心原性脳塞栓症のように大きな血管が詰まってしまったときには効果がありません。そこで最近は、カテーテルで脳内の血栓を取り除く療法が確立されています。発症後の処置が早ければ早いほど、効果的に治療ができます。

川井　治療方法も進化しているのですね。とはいえ、やはり立ち返ると一番は予防だと考えることができます。

西本　はい。脳卒中は動脈硬化が原因で起こることが多いですから、冒頭でも触れた通り、やはり塩分や油物を控えて高血圧を避けコレステロールに気を配る、また禁煙したり飲酒を適量にしたりして、動脈硬化の進展を予防していただきたいと思います。

心房細動の治療と塞栓症の予防、二つの柱を両立

川井　では次に視点を変えて、先ほど話が出た心房細動について、循環器内科の菅根裕紀先生にお話を伺います。

菅根　心房細動とは、心原性脳塞栓症を起こす一番頻度の高い不整脈です。

左図にあるように、心臓には袋状の左心耳という構造物があります。心房細動になると、ここに血液のよどみが発生し血栓ができます。この血栓が心臓の拍出によって脳に運ばれ、血液が詰まり脳梗塞を発症してしまいます。

心房細動の最も多い原因は加齢です。症状は、動悸（どうき）、息切れ、脈がバラバラになる、心不全などさまざまです。一方で無症状のままいつの間にか発症している方もおり注意が必要です。

川井　心房細動になったときの治療法にはどのようなものがありますか。

菅根　脈がバラバラになることで不快感を覚える方や、心房細動によって心不全を来している方は、心房細動自体を停止させる治療をします。抗不整脈薬で脈を落ち着かせる治療、またはカテーテルアブレーションというカテーテル治療があり、どの治療法を選択するかは基礎疾患の有無や患者さんの希望によってケースバイケースです。

また65歳以上で何かしらの基礎疾患がある方、あるいは75歳以上の方は左心耳に血栓が形成されやすいため、抗凝固薬を使います。一般的に高齢者の方はこの治療が当てはまります。

川井　心房細動自体を治すことと塞栓症を予防すること、二つの大きな柱があるということですね。では脳卒中のリスクを減らすことは可能ですか。

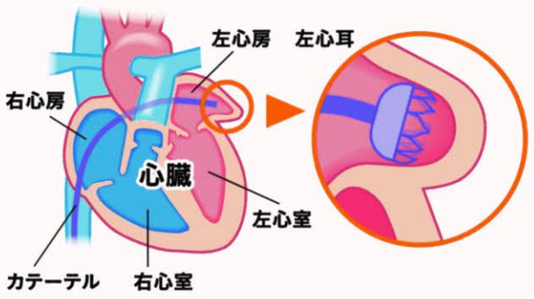
菅根　一般的には先ほど申し上げた血液をサラサラにする抗凝固薬を使用することにより、左心耳に血栓が形成されにくくなります。この薬物治療は適切な容量用法を守り、飲み忘れがないようにすれば問題ありませんが、出血リスクが高い方は、脳出血や消化管出血などを来してしまう不安もあります。

社会医療法人近森会 近森病院 副院長 循環器内科 主任部長
川井 和哉（かわい かずや）先生
成人の心臓病や血管病の診断・治療、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患に対する経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を専門とする。大動脈弁狭窄（きょうさく）症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）などのカテーテル治療にも係わる。心不全のチーム医療を積極的に推進。
日本内科学会 総合内科専門医
日本循環器学会 循環器専門医

心原性脳塞栓症予防法

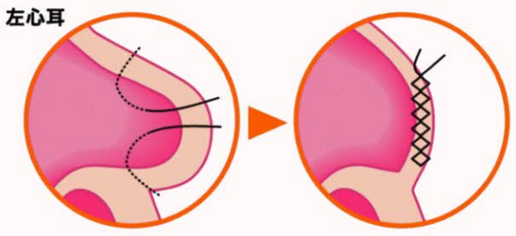
左心耳閉鎖術

カテーテルにより左心耳にふたをする手術



左心耳切除術

左心耳を縛って切除し縫合する外科手術



脳梗塞予防法

※イメージ

薬物療法（抗凝固薬）

血液をサラサラにして血栓形成を予防する薬

左心耳閉鎖術の可能性、脳神経外科と脳神経内科循環器内科チームで治療を

川井　抗凝固療法以外に、脳梗塞を予防する方法はあるのでしょうか。

菅根　はい、血栓を抑止する手術として左心耳切除術、左心耳閉鎖術があります。まず左心耳切除術とは、血栓が形成されやすい左心耳を切除する方法です。抗凝固薬を飲む必要がなくなり塞栓症リスクを低下させますが、開胸が必要なため、通常は他の手術に追加して行われることがほとんどです。

左心耳閉鎖術は、開胸せず左心耳を閉鎖する新しい方法です。足の付け根にある太い静脈にカテーテルを入れ心臓にアクセスし、専用の機器を使って左心耳を閉鎖します。手術は1時間ほどで終わり、入院期間も4日程度です。脳梗塞予防に有効で、ほとんどの方が抗凝固薬をやめることができ、将来の出血リスクも軽減が期待できます。

川井　脳梗塞と出血、両方のリスクを抱えている方には光明な治療法ですね。今回お話を伺い、脳と心臓に深い関係があること、治療・予防両面で脳神経外科、脳神経内科と循環器内科の連携が重要だと分かりました。では最後にそれぞれの立場からメッセージをお願いします。

西本　脳卒中にはさまざまなタイプがあり、不整脈が原因のものもあるということを多くの方に知っていただきたいと思います。また脳卒中の治療は時間が非常に大事ですから、症状に気付いた場合はすぐに専門の病院に行ってください。治療は脳だけでなく心臓の専門の医師を含めたチームで行う病院でぜひ受けていただきたいと思います。

菅根　循環器内科としては、心房細動に対して複数の治療法を提示できますので、お話しした左心耳閉鎖術に興味のある方はもちろん、そうでない方で心房細動でお悩みがある方も、気軽に相談していただきたいと思います。

川井　今日は脳と心臓の深い関係がよく分かりました。高知県の皆さまに脳卒中や心房細動の理解が深まり、県民の健康寿命が長くなることを祈念します。ありがとうございました。

企画・制作／高知新聞社営業局　協賛／ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

心房細動についてもっと詳しく知りたい方は、https://www.laac.jp にアクセスしてください

SH-1142602-AA